

# 基本目標検証シートの見方と検証のポイント

## 総合戦略基本目標検証シート(平成27~30年度実績を踏まえて)

**基本目標 1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする**

総合戦略における基本目標の計画内容について、そのまま転記しています。

**計画内容**

進学や就職で当市を離れた若者などが、その後、再び戻ってくる割合が一貫して低い状況が続く。この背景には、地元の魅力ある職種が少ないこと、当市に居住しながら勤務できる企業が十分に立地していないこと、さらには、豊かな農林水産資源の高付加価値化等への活用が不十分であることなどがあると推測される。

当市では、人口減少に一定の歯止めをかけ、持続可能な地域づくりを推進するため、「しごと」をつくり、働く場の確保や働きたい場の創出を図ることが第一であり、産業振興による新たな雇用の創出をはじめ、農林水産業の高付加価値化、起業・第二創業の促進、女性や高齢者等の効果的な活用、さらには産業人材の育成や職業訓練の推進などにより、大船渡でしごとをつくり、誰もが安心して働けるようにする。

こうした取組を継続しながら、市外から人を呼び込む流れを生み出し、「しごと」と「ひと」の好循環へとつなげ、持続可能な「まち」の構築を図っていく。

重要業績評価指標	単位	目標値 (R01)	実績値 (計画期間)					達成率 (対H30)
			基準値 H26	H27	H28	H29	H30	
① 市内総生産	単 百万円	166,567	166,152	193,461	205,418	207,857	187,378	112.5
② 基盤産業総生産	単 百万円	32,392	30,211	42,682	40,587	42,256	36,039	111.3
③ 起業・創業件数	単 件	40	59	55	39	31	29	72.5
④ 職業訓練等受講者数	単 人	170	144	112	148	115	68	40.0

※①②の数値は、当該年度で把握した数値であり、2年前の実績値である。

重要業績評価指標に関する数値等を記載しています。「実績値」は、単年度で捉えるものと累計で捉えるものの2種類あります。「達成率」は目標値 (R01) に対する直近 (H30) の実績値の達成割合を算出したものです。これらにより、基本目標の計画内容がどの程度進捗しているか等がわかります。

**○施策の体系と進捗度**

施策1 産業競争力の強化

111	水産業連携強化促進プロジェクト	B
112	おいしい「食」づくり力向上プロジェクト	A
113	持続可能な漁業推進プロジェクト	B
114	港湾物流機能強化プロジェクト	B

施策2 新産業の創出と起業・第二創業支援

121	テレワーク導入促進プロジェクト	B → A
122	新分野進出促進プロジェクト	B
123	出る杭育てるプロジェクト (起業家輩出プロジェクト)	A

施策3 地域産業人材の育成とキャリア教育の推進

131	地域産業人材育成強化プロジェクト	B
-----	------------------	---

取組の状況や指標の達成度、進捗状況等を踏まえ、総括を整理しています。赤字は主な修正箇所です。

左の総括を踏まえた今後の方向性を記載しています。事後評価として「今後の方向性が妥当であるか等」を検証します。

評価結果 (内部評価)	基本目標・施策の総括と今後の方向性		今後の方向性
	進捗度	<b>B</b>	の進捗理由

**< 総括 >**

3施策9プロジェクトを実施し、しごとをつくり、安心して働けるようにするための各種取組を推進した。

- ・施策1「産業競争力の強化」については、魚市場の水揚増強、水産流通加工業や漁業における**宿舎整備への補助等**による人手不足対策、I L C誘致活動やポートセールスによる貨物確保等に取り組んだほか、「さかなグルメのまちづくり」では年間を通して**さんまグルメを味わうことができる活動等**様々な取組により、ブランド化の推進を図った。また、三陸SUNの活用による**首都圏での生鮮水産物の販路の拡大等**に資する取組を実施した。今後とも、他業種との連携の促進による高収益化に向けた取組を推進する必要がある。
- ・施策2「新産業の創出と起業・第二創業支援」については、**大船渡市ふるさとテレワークセンター内に、サテライトオフィス**を2室拡張整備し、テレワークの推進に努めるとともに、起業支援等の取組の充実を図りながら、既存企業等に対する新分野進出への働きかけを行った。復興需要収束を見据えた取組を更に加速させる必要がある。
- ・施策3「地域産業人材の育成とキャリア教育の推進」については、在職者や求職者等への職業訓練や研修会、各学校での職場体験学習の充実を図るとともに、遠隔職業教育プログラムの環境が整い、プログラマーの育成を図った。今後は、さらなるプログラマーの育成や活用を推進する必要がある。

**< 今後の方向性 >**

引き続き、3施策9プロジェクトを実施する。

- ・復興需要収束後を見据えた産業振興を展開するため、民間事業者等との連携を深めながら、地域産業の活性化に資する取組を強化する。
- ・漁業や水産流通加工業の振興については、水産業振興計画に基づき水産関係者と連携しながら着実に推進するとともに、市内漁業協同組合が策定した地域再生営漁計画の推進を支援する。
- ・港湾物流拠点化に向けて、ポートセールスやコンテナ用上屋倉庫の有効活用等による更なる貨物確保とともに、道路整備やI L C誘致等総合的に取り組む。
- ・年間を通してさんまグルメを味わうことができる「さんまグルメフェア」の開催等、引き続き、官民一体によるさかなグルメのまちづくりを全市的に展開するとともに、6次産業化等を推進する。また、加工事業者等の商品開発や販路拡大につながる取組を推進する。
- ・ふるさとテレワークセンターを核としたICT産業の集積を図るとともに、ICTエンジニアと地元農林漁業者等との連携を促進し、新たなビジネスの創出を図る。
- ・市内における**起業や既存企業による新たな事業展開等に結びつくよう、企業や個人への支援を継続しつつ、成長を起す新しい発想を持ち、挑戦を志向する人材の輩出・育成を推進する。**

取組の状況や総括等を踏まえた結論としての進捗度を記載しています。事後評価として「この進捗度が妥当であるか等」を検証します。  
※説明書きがない場合は、進捗度は昨年度と同様です。

左の進捗度に至った理由について記載しています。事後評価として「この理由が妥当であるか等」を検証します。  
※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。

## プロジェクト検証シートの見方と検証のポイント

### 総合戦略プロジェクト検証シート(平成27~30年度実績を踏まえて)

<b>プロジェクト名</b>	<b>111 水産業連携強化促進プロジェクト</b>	総合戦略におけるプロジェクトの計画内容について、手段・意図や目的ごとに区分しながら、そのまま転記しています。
----------------	----------------------------	--

計画内容	手段・意図	水産業に係る生産、加工、流通の連携強化による稼ぐ力（域外から収益を得る力）の強化により、	水産業に係る生産、加工、流通の連携強化による稼ぐ力（域外から収益を得る力）の強化により、
	目的	人材不足解消に向けた機械化による業務省力化の推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城内調達率の向上を促進する。</li> <li>・他業種との連携を強化する。</li> <li>・地域ブランド化の構築等を推進する。</li> </ul>

重要業績評価指標	単位	目標値 (R01)	実績値 (計画期間)					達成率 (対H30)
			基準値 H26	H27	H28	H29	H30	
① 大船渡市魚市場水揚高	単 百万円	7,200	7,042	6,107	5,694	6,979	6,502	90.3
② 大船渡市魚市場水揚量	単 t	60,000	52,861	41,799	36,076	37,605	43,393	72.3
③ 食料品製造出荷額 (水産加工品)	単 億円	128	113	138	156	226	204	159.4

※③の数値は、当該年度で把握した数値であり、2年前の実績値である。

関連事業	<p>① 地方創生推進事業 ② 物産販路拡大事業 ③ 企業立地推進事業 ④ 産学官連携交流促進支援事業 ⑤ 雇用促進奨励支援事業 ⑥ 起業支援事業【再掲】</p> <p>※【 】内の数値は、平成30年度事業費(決算額)である。</p> <p>④ 産学官連携交流促進支援事業 <b>[8,177千円]</b>      ⑩ 高度衛生品質管理地域づくり事業 <b>[859千円]</b></p> <p>⑤ 雇用促進奨励支援事業 <b>[千円]</b></p> <p>⑥ 起業支援事業【再掲】 <b>[千円]</b></p> <p>※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。</p>
------	--

取組の実績 (H27~)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手大学、北里大学と市内事業者の共同研究に対して、補助金を交付した。〔④〕</li> <li>・大船渡市水産振興会と連携して、廻来船等の誘致により水揚増強を図った。〔⑦〕</li> <li>・水産加工業の人手不足対策として、宿舍等の建設費用の一部を補助した。〔⑧〕</li> <li>・平成29年8月1日付けで、大船渡産水産物の魅力発信等を行う地域おこし協力隊隊員1人を委嘱した。〔⑨〕</li> <li>・地域経済循環創造事業交付金を活用し、地域金融機関と共同して水産加工等の工場整備を支援するとともに、原料確保に係る取引拡充に向けた取組を検討した。〔①〕</li> <li>・大船渡ふるさと交流センター「三陸SUN」と綾里漁協が連携し、首都圏での生鮮水産物の店頭及び企業向けの予約販売を試験的に実施した。〔⑩〕</li> <li>・人材不足の解消を図るため、事業主に対する既存の雇用奨励金制度を縮小し、新たに新規学卒者等に対する就職奨励金制度を創設した。〔⑤〕</li> </ul> <p>※【 】内の数値は、関連する事務事業である。</p>
H30年度に向けた取組状況等	<p><b>【新たな取組等】</b></p> <p>平成30年度内において、「計画内容の具現化」や「指標達成」に向けた新たな取組や既存取組の拡充・見直し等について、それぞれに区分けして赤字で新たに記載しています。</p> <p><b>【既存取組の拡充・見直し等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職奨励金の交付対象である新規学卒者の範囲を中学校、高等学校、特別支援学校の卒業者に拡充した。〔⑤〕</li> </ul>

平成27度からの取組に係る「成果」を赤字で新たに記載しています。

評価	(指標の取組による状況分析)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船誘致を継続することにより、大船渡市の水揚げに貢献している。</li> <li>・5事業者が宿舍を整備し、38人の新規雇用があった。</li> <li>・岩手大学との共同研究で取り組んでいる作業工程の省力化については、導入に係る提案はできているものの、事業者によるブラッシュアップが進んでおらず、本格的な導入に至っていない状況である。</li> <li>・北里大学との共同研究については、基礎研究を含むため成果が表に出にくい状況にある。ただし、継続的な研究により、今後、本計画の目的である城内調達率の向上促進や地域ブランド化の構築等の推進に寄与するものと考えている。</li> <li>・雇用促進奨励支援事業の拡充により、奨励金交付件数が平成29年度実績12件から平成30年度実績84件に増加した。</li> </ul> <p>取組の状況や成果等を踏まえた上での課題を整理しています。事後評価として「この課題が妥当であるか、追加項目がないか等」を検証します。※赤字は加除修正した箇所です。</p> <p>左の課題に対する改善策や方策等について、今後の方向性として記載しています。事後評価として「今後の方向性が妥当であるか、他に取り組む項目はないか等」を検証します。</p>										
成果 (内部評価)	の課題と今後	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">＜課題＞</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">＜今後の方向性＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・原魚の確保</td> <td>→ 永続的な水産資源の確保に係る国等への働き掛け継続</td> </tr> <tr> <td>・労働力の安定的な確保</td> <td>→ 漁船誘致の継続実施</td> </tr> <tr> <td>・新たな地域ブランドの創出</td> <td>→ U・I・Jターナー者、女性、障がい者、再雇用などの促進を図る</td> </tr> <tr> <td>・水産系未利用資源の新たな活用</td> <td>→ 商品開発や販路開拓に向けた業種間連携の強化</td> </tr> </tbody> </table>	＜課題＞	＜今後の方向性＞	・原魚の確保	→ 永続的な水産資源の確保に係る国等への働き掛け継続	・労働力の安定的な確保	→ 漁船誘致の継続実施	・新たな地域ブランドの創出	→ U・I・Jターナー者、女性、障がい者、再雇用などの促進を図る	・水産系未利用資源の新たな活用	→ 商品開発や販路開拓に向けた業種間連携の強化
＜課題＞	＜今後の方向性＞											
・原魚の確保	→ 永続的な水産資源の確保に係る国等への働き掛け継続											
・労働力の安定的な確保	→ 漁船誘致の継続実施											
・新たな地域ブランドの創出	→ U・I・Jターナー者、女性、障がい者、再雇用などの促進を図る											
・水産系未利用資源の新たな活用	→ 商品開発や販路開拓に向けた業種間連携の強化											
進捗度	進捗理由	<p><b>B</b></p> <p>宿舍等の新築、改築、購入費用の一部補助等により水産加工業の人材確保は図られている一方で、省力化やブランド化の促進に向け、業界全体の動きになるよう促す必要がある。</p> <p>左の進捗度に至った理由について記載しています。事後評価として「この理由が妥当であるか等」を検証します。※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。</p>										

取組の状況や成果等を踏まえた結論としての進捗度を記載しています。事後評価として「この進捗度が妥当であるか等」を検証します。※説明書きがない場合は、進捗度は昨年度と同様です。

左の進捗度に至った理由について記載しています。事後評価として「この理由が妥当であるか等」を検証します。※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。